

武庫川流域における流域対策の実績等について

第9回総合治水ワーキングチーム
資料5

第28回流域委員会
資料2

(H17.11.2)

	武庫川流域内における流域対策の実績				武庫川流域外における流域対策の実績				今後実施する可能性のある流域対策	備 考
	ため池	校庭貯留	各戸貯留 浸透樹	その他 (農地、公園、透水性舗 装、調整池設置等)	ため池	校庭貯留	各戸貯留 浸透樹	その他 (農地、公園、透水性舗 装、調整池設置等)		
篠山市	なし	なし	なし	(透水性舗装) 約 2,500㎡	なし	中学校1箇所設置 平成15年度 2,498㎡	なし	(透水性舗装) 約 21,100㎡	(ため池) 流域内には大小28箇所のため池があり、その中には危険ため池もあって改修時に受益者の同意が得られ、かつ市の財政的な問題をクリアすれば可能である。 (校庭貯留) 校庭貯留については、少子化に伴い児童数が減少してきており、近い将来には小学校の統合を考えなければならない。その際に校庭貯留を検討する。 (農地) できるとすれば、国の減反施策や農家の後継者不足等で荒廃している圃場の整備である。	
三田市	なし	三田西陵高校 1,640m3 ゆりのき台小学校 900m3 あかしあ台小学校 1,100m3 ゆりのき台中学校 4,400m3 計 8,040m3	なし	(公園他) 4施設 3,966m3 (調整池) 10施設 48,412m3 この内3施設は、既存ため池を嵩上げし、貯水量を増加させている。(29,100m3)	-	-	-	-	流域対策については、武庫川流域委員会の答申を受けて、市が取り組める事業について検討していきたい。	(各戸貯留) 散水等の雨水利用による貯留槽(合併浄化槽等の再利用)設置については、これまで約40軒が実施している。
神戸市	なし	なし	なし	(調整池) 民間団地開発に伴い調整池設置(約65箇所:調整容量約38万m3) (H17より条件が整えば市が引き継ぐ制度を設ける)	団地開発に伴い調整池設置に代えて既存のため池を改修し、調整機能を持たせている。(西区2箇所)	小学校10箇所、公園1箇所の計11箇所設置(6~17m3)	合流区域(概ねJR東海道線以南)において雨水利用タンク購入費の助成(購入価格の2/3助成・H15,16年度約240基設置)	(透水性舗装) 歩道:約20,000㎡	(校庭貯留) 今後2カ年で4箇所程度整備予定であるが、現在のところ設置箇所は未定	(調整池の指導) 開発面積が3,000㎡以上の場合で市が管理する河川等に影響がある場合は、調整池の設置を指導している。
宝塚市	なし	仁川小学校 ・雨水利用 316m3 ・雨水流出抑制 83m3 宝塚第一小学校 ・雨水利用 100m3	(各戸貯留) 宝塚市雨水貯留施設設置事業 ・宝塚市公共下水道区域内の一般家庭の雨水排水設備に設置する。 ・雨水利用タンク設置費の一部を助成する。 ・設置費用(本体及び工事費)の1/2を設置者、1/2を市が負担する。 ・(助成限度額3万円)。年間約40件を予定している。 ・平成16年度 2件設置 ・平成17年度 34件申請中25件設置済 (H17.10.25現在) ・なお、上記の数値は宝塚市域全体のものである。	(透水性舗装) 小規模な道路補修(歩道)では実績があるが数量等不明	-	-	-	(透水性舗装) 猪名川流域では200m2の実績	(各戸貯留) 宝塚市雨水貯留施設設置事業について、平成19年度まで継続予定。 (公園) 本格的な流域対策は計画していないが可能な限り舗装を真砂土舗装や芝生にし、保水性を高める努力をする。開発提供公園の指導についても同様に指導する。 (調整池) 開発面積3000m2以上で流量の増大をもたらす場合は浸透施設等を検討させる。(独立専用住宅を除く) (透水性舗装) 施工可能な範囲で実施予定。	
伊丹市	なし	なし	(浸透樹) H14年 230個、H15年 136個 H16年 296個、H17年 30個 計 692個	(透水性舗装) H14年 1,317.5㎡ H15年 2,085.1㎡ H16年 1,853.4㎡ H17年 861.2㎡ 計 6,117.2㎡ (調整池) 戸建て開発 ・伊丹市鴻池宮ノ前 ・貯留量 31m3	-	-	-	-	(ため池) 隣接している都計道路、隣接している二級河川天王寺川の堤防等の関係からため池の嵩上げは不可能。 (校庭貯留) 今後の課題と考えている。 (各戸貯留) 今後の課題と考えている。	(浸透樹、透水性舗装) 開発面積が500㎡以上もしくは2戸以上を対象に浸透樹や透水性舗装の施工を指導している。
尼崎市	なし	なし	(浸透樹) H16年度 10個	なし	なし	なし	(浸透樹、浸透管) ・浸透樹 H16年度 1,320個 H15年度末 37,296個 ・浸透管 H16年度 2,238m H15年度末 132,430m (H15年度以前は、市内全域分)	(浸透舗装) ・浸透舗装 H16年度 18,819㎡ H15年度末 764,319㎡ (H15年度以前は、市内全域分)	(浸透樹、浸透管、浸透舗装) 今後も尼崎市住環境整備条例・規則により設置させる。	
西宮市	なし	なし	(浸透樹等) 浸透樹等については、開発事業に伴う流出抑制対策として民地内で施工している。	(調整池) 開発に伴う調整池 市管理調整池 22箇所 調節容量 約20万m3 自主管理調整池 23箇所 調節容量 約17万m3 (透水性舗装) 透水性舗装は歩道の一部で実施済み。	甲陽大池 洪水調節容量 35,300m3 新池 洪水調節容量 24,000m3	小学校を中心に平成12年度より実施(オンサイト) 平成16年度末現在17校完了 平成17年度4校予定 1箇所平均 480m3/校 計 8130m3設置済み	(浸透樹等) 浸透樹等については、開発事業に伴う流出抑制対策として民地内で施工している。	(調整池) 開発に伴う調整池 市管理調整池 6箇所 自主管理調整池 4箇所 (透水性舗装) 透水性舗装は歩道の一部で実施済み。	(透水性舗装) 新設歩道を中心に今後も実施予定。	(浸透樹等) 開発面積が500㎡以上を対象に浸透樹等の施工を指導している。